

<b>授業科目</b>  小児看護援助論 I	<b>区分・教育内容</b>  専門分野Ⅱ 小児看護学		
<b>授業担当者</b>  秋山 祥子	<b>開講時期</b>  前期～中期	<b>単位数</b>  1 単位	<b>時間数</b>  30 時間
<b>授業の目的</b> 健康上の問題を持つ子どもと家族が、生活・療養するための看護実践に必要な知識を身につける。  <b>授業の目標</b> 1. 健康上の問題を持つ子どもと家族の心理および対応の方法を理解する。 2. 健康上の問題を持つ子どもと家族に対する看護援助の方法を理解する。 3. 子どもの発達段階を踏まえた看護援助の方法を学ぶ。			
<b>授業概要</b> 健康上の問題は子どもの成長・発達に大きな影響を与えます。小児看護学概論で学習した知識を基に、どのような影響をおよぼすのかをとらえ、それらを最小限にするための関わりを学習します。治療・処置は子どもにとっても健康回復のために必要なことです。大人では難なく行われることであっても、子どもの場合は大人とは違う特殊なケアが必要になります。プロジェクト学習では、はじめに看護技術を細かく分析し、それにより子どもがどのような体験をするのかを捉えます。そしてプラスアルファの関りやコミュニケーションの応用力を加えた看護技術の提供方法を提案していきます。  <b>授業計画（進め方）</b> 1・2 回目 健康上の問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響とその看護 3 回目 外来受診をする子どもと家族の看護 4 回目 検査や処置を受ける子どもと家族の看護 5 回目 急性期にある子どもと家族 6 回目 慢性期にある子どもと家族 7 回目 医療的ケアが必要な子どもと家族の看護 8 回目 終末期にある子どもと家族 9 回目 手術を受ける子どもと家族の看護 12 回目 子どもの救急救命処置 10・11・13・14・15 回目 プロジェクト学習：小児看護技術 仮題：「子どもの体験を捉えた看護技術の提供方法を提案します。」 ※詳細は授業の中でガイダンスする。			
<b>テキスト</b> ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版			
<b>参考書・指定図書</b> 筒井真優美 小児看護学 第8版 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日総研 山元恵子 写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～ インターメディカ 浅野みどり 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 50% プロジェクト学習（ルーブリックでの評価）35% 授業時間に提示する課題 15%			